

SDGs達成へ力強



小規模放牧酪農を全国に広げようとする木下代表

適正規模経営モ



●地元の人が多く訪れる自社店舗、●善い米ぬかと混ぜて発酵させたほかに牛乳を与える

経営が理想だと考えている。これ以上の規模拡大は考えていない。このモデルをそれぞれの地域に合った形で全国に広げていくのが目標」と笑顔を見せる。現在、学生や企業などの視察を受け入れ、講義活動も始めている。

農福連携で地域共生社会づくり

京都・京田辺市 さんさん山城

「目指すのは農業と福祉それぞれの課題解決と利益につながるWin-Winの関係」

京都府京田辺市にある障がい者就労継続支援B型事業所「さんさん山城」(運営・社会福祉法人京都聴覚言語障がい者福祉協会)は、農福連携による伝統野菜や特産物の産地消、廃棄ゼロに取り組み、障がい者が社会の一員として活躍

「目指すのは農業と福祉それぞれの課題解決と利益につながるWin-Winの関係」

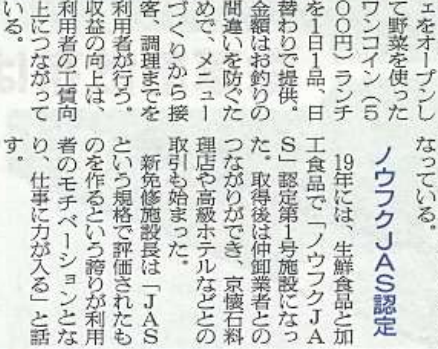
所。高齢で廃園予定だった農家の茶園16町を借り、就労の場として宇治茶の生産を始めた。その後、市内10カ所の耕作放棄地を次々と借り、特産の田辺茄子、伝統野菜の海老芋など約30種類を越す農産物の生産・加工・販売に通年で取り組んでいる。

管理者の藤永実さんは「利用者は定植・管理、収穫で栽培技術を学ぶ、ホテ

特産、伝統野菜を30種以上生産・加工・販売を通年で

3 すべての人に健康と福祉を

8 働きがいも経済成長も



規格外の海老芋の皮むき作業をする利用者

海老芋を収穫する利用者

コミュニティカフェを担当する利用者

コミュニティカフェを担当する利用者

プロイラーの糞を燃料に発電事業

宮崎・川南町 みやざきバイオマスリサイクル

先進事例を視察し、方向性がすぐにまとまったとい

2003年には4社を中心

売電収入で運営

売電収入は年間1万1千

豚汁の具材に利用している。手摘み抹茶をふんだんに使った濃茶大福や濃茶クッキーも人気だ。

カフェをオープン

17年、施設内にコミュニ



野菜、加工品、カフェの売り上げは5年間で約3倍

工賃は1カ月約3万円と、全国的に就労継続支援B型事業所の平均工賃の倍近くになっている。

「鶏糞を燃料に使う」